



『地域の夏祭りに参加しました』

愛の手を

パプテスト心身障害児(者)を守る会

第176号

発行責任者

社会福祉法人 パプテスト心身
障害児(者)を守る会

重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター

理事長 山田 雄 次

編集責任者 馬 原 哲 治

福岡県粕屋郡久山町大字

久原 1869

☎代 (092)976-2281

FAX (092)976-2172

出生前診断と障害児について考える

福岡女学院看護大学学長／評議員 西間 三馨

最近、出生前診断で染色体異常が早期に検出できるようになり、これらに関して今まで内蔵していた多くの問題・課題が一気に噴出してきたかにみえる。最も出生数の多い、かつ障害も比較的軽いものから重症なものまで幅の広いダウン症候群(染色体の21番目が正常の2本ではなく3本あるもの)で、検査で異常が見つかった多くのケースで人工流産が行なわれたという報告が早くも上ってきた。8月には代理出産がさかんに行なわれているタイで、98万円で依頼したオーストラリア人の夫妻が出生前診断で双子の1人がダウン症とわかり中絶をすすめるも代理妻は出産し、結果、夫妻は一人の子は連れて帰ったもののダウン症の子は障害児療育料として66万円を追加し、子の受取りは拒否したという新聞報道があった。

この問題は代理出産という、そもそも出産できない男女の遺伝子を残す必然性は社会で許容できるのかという根本的な問題は別として、障害児は出産させない、障害児は自分の子として育てたくない、ということを実に示した事例と思われた。

出生前診断は20年も前から行なわれてきたが、新型診断法は妊娠10週

になれば妊婦からの採血でそれに含まれる胎児のDNAを調べることで感度も特異度も99%以上という極めて高い精度で染色体異常がわかる安全性も高い検査である。今は自己負担(20万円程度)で限られた施設に限定されているが、公費負担が普通に行なわれている国も出てきており早晩、日本でも拡大してくる可能性がある。

過去、「不幸な子どもの生れない県民運動」、「優生保護法改悪」など、「障害児が生れてくると自体が不幸」という時代があったが、今、また、このような出生前に障害のある生を排除していくという行動が明らかにになり、この先には、生産性のない人間にまで、その排除の感覚が広がり、社会的、経済的負担の大きい人は社会から排除することに何の抵抗もない考え方につながっていくのではないか、という危惧を抱かざるをえない。

私達、重症心身障害児(者)をみている者は、このような社会の動きを正しく認識し、久山療育園のような良質な施設を守り育て、かつ外に向かつてその存在をアピールする行動を不断に強めていかなければならない時代ではないかと思っている。

主 張

「在宅支援センター」建築募金のお願い
— 広く皆様からの参画を願って —

理事長 山田 雄次

「在宅支援センター」建築計画

◎工事計画

建築工事(2014・6)

竣工(2015・6)

事業開始(2015・7)

◎建築規模

敷地面積…1841.81㎡

(558坪)

建築面積…1250.59㎡

(379坪)

延床面積…1984.84㎡

(601.5坪)

◎建築資金・経費(土地取得、擁壁工事、諸設備費、設計監理費他)…5億5500万円(全国支援者からの募金3000万円+法人将来計画積立金5億2500万円)

■「在宅支援センター」の働きについて■

2012年度に行われた福岡県の重症児者の実態調査により、在宅重症児者家庭が障害の重度化や介護にあたる親の高齢化等の理由で非常に厳しい状況の中に置かれており、在宅支援の強化が求められていることが明らかになりました。

久山療育園は早くから在宅支援として通所事業、医療的短期入所事業その他の取り組みを行って来ましたが、この度重症児者医療療育センターの働きの一層の拡充強化を目ざし、在宅支援の新しい拠点づくりと

しての「在宅支援棟」と介護サービス包括型グループホーム(共同生活支援事業)、「重症者ホーム・ひさやま」の開設を決め、2015年7月の開所を目ざし、建築に取りかかっているところだ。

「在宅支援棟」は通所事業(第2療育室)・訪問事業その他への働きを包括する場とし、児童発達支援・訪問事業の拡充を期すこととなり、「重症者ホーム・ひさやま」は医療的ケアの必要度の低い在宅重症者(障害支援区分6・5、スコア3点以下)の福祉型入居施設(受け皿)として新しい分野を開こうとする画期的な取り組みです。

■建築募金への理解と協力をお願い■

第2次在宅支援プロジェクトとして「在宅支援センター」を開設するため特別の建築募金をお願いをさせて頂く訳ですが、それにつきましては新しく募金をお願いをするに価する事業でなければなりません。

その点につきまして以下特に2点の理由を挙げる事が出来ると思えますのでこの際格別のご理解を頂き、広く皆様からのご賛同ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

(1)重症児者医療療育センターの機能の拡充・強化の働きとして

私たちが目指す福祉社会は、整えられた福祉制度のもとで立てられた社会資源(重症児者施設)が提供する契約入所、短期入所、通所、外来診療、訪問支援事業その他のサー

ビスを重症児者が自由に選択し、人としての豊かな生活の質(QOL)を求めて生きることが出来る社会です。その故に社会資源として立てられた重症児者施設は重症児者が求めるニーズに応えられるよう常にその働きの機能の拡充と強化が求められています。

「在宅支援棟」と「重症者ホーム・ひさやま」の開設は、その意味で重症児者と共に生きる福祉社会づくりの拠点としてある久山療育園重症児者医療療育センターの働きを一層豊かにし、その機能の拡充と強化をもたらすものとして特筆すべき取り組みであると信じます。

(2)「重症者ホーム・ひさやま」の開設は在宅重症者の「受け皿」としてのテストケースとしての意義が

かかった働きであること。

重症児者福祉の流れで言えば重症児者施設の新設と増床が行われただけでなく、将来においては減床となり、障害支援区分の低い重症者の入所が厳しくなるということが心配されています。そしてその事に連動して在宅重症者の新しい「受け皿」づくりの必要が強く求められているのが現状です。久山療育園はそうした状況に鑑み、医療的ケアの必要度の低い重症者(障害支援区分6・5、スコア3以下)の「受け皿」として「重症者ホーム・ひさやま」の開設を行うこととしました。これは重症者より障害支援区分の低い障害者のための福祉型入居施設を重症者の入居施設として活用してゆこうとする新しい試みです。

重症児者施設が運営する「重症児のケアホーム」(旧い呼称)は全国にいくつありますが、厳密な意味で本当の重症者のためのものは無く「重症者ホーム・ひさやま」がはじめて、今後のテストケースとして注目されることだと思います。「重症者ホーム・ひさやま」の運営にあたっているのは一般のケアホームの場合より人的配置を厚くする必要があります。そのための人件費分の費用がかさみ年間1200万円ほどの赤字が生ずる…、それが悩みですが「重症者ホーム・ひさやま」の開設は親の高齢化による将来の不安を拭い取る希望のよりどころとして強い期待が寄せられており、皆様のご理解を頂き成功させなければならぬと願っている次第です。

■終わりに■

理事長の主張の面で建築募金をお願いするということについてはテーマとして如何なものかと考え躊躇しましたが、建築募金が単なる資金集めではなく、第2次の在宅支援プロジェクトとしての「在宅支援センター」の働きについて理解の周知を計り、ひとりでも多くの賛同支援者を得たいという願いによるものだという認識に立ち、初年度のアピールに続く「二の押し」が肝心であると思い、募金の取り組みの真剣度を示す意味も込めて取りあげさせて頂きました。広く皆さまからのご協力が頂けますよう心よりお願い致します。

募金申込送金先はP13をご覧ください。

「平成26年度全国重症心身障害施設協議会報告」

センター長 宮崎信義

はじめに

今年の全国重症心身障害児施設長会議は、公益社団法人「日本重症心身障害福祉協会」の主催で、5月14～16日に鹿児島市で「全国重症心身障害施設協議会」として開催されました。参加施設は121施設（施設総数127施設）で参加者は367名でした。読者の皆様には非お伝えしたい内容について以下のようにとまとめました。

行政説明

今年の行政説明は、厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室長の川嶋均室長補佐がなさいました。障害福祉施策の歴史と平成24年6月20日に成立した「障害者総合支援法」が平成25年度に施行（一部は平成26年度）されたことと以下の要点について説明されました。

要点は、「改正障害者自立支援法（つなぎ法）」では発達障害が対象となることを明記され、相談支援の充実がはかられ、放課後等デイサービスが創設された。利用者負担は

平成24年度から応能負担を原則にすることを明確化し、その結果として負担が93・4%（低所得2が80・8%・生活保護が12・6%）と負担が軽減されたことが強調されました。また障害者の範囲の見直しと「障害支援区分」への見直し（平成26年度施行）について言及されました。「障害支援区分」への見直しについては、障害の程度（重さ）ではなく、標準的な支援の度合いを示す区分とする説明されています。

協議の焦点

今年は課題についてのシンポジウム及び協議ではなく、公益社団法人となった機会に委員会・特別委員会・研修会を見直し、各委員会ごとに今後の取組が説明され協議されました。

焦点は、①医療問題検討委員会で、平成26年度診療報酬改定は全体改定率はマイナス1・26%（＋消費税補填分1・36%）であった。②療養病棟入院基本料の「医療区分2」とする経過措置期間が終了し「医療区分

1」とされた場合は大幅減収の恐れがあり、療養病棟入院基本料を算定している23施設では激震が走りましたが、幸い経過措置は継続されるようです。

委員会報告

①医療問題検討委員会報告。平成26年度診療報酬改定の要点については既に述べましたが、厚生労働省を始めとする施策の重大な課題として、2025年問題（近未来の団塊の世代が75歳以上となる年）に向けての在り方について触れられました。医療費削減のポイントとして

病床数の削減が意図されていますが、現在でも病床数が898566床であり中でも7対1看護病棟の過剰（357569床）が指摘されています。これはむしろ厚生労働行政の政策の結果、誘導されたものと考えられます。公法人立重症心身障害施設

の病床区分は、障害者施設等入院基本料算定施設は延90施設、特設の療養病棟37施設、療養病棟入院基本料算定23施設、精神病棟

入院基本料算定10施設ですが、病床数に対して医療職の配置基準が足りない療養病棟入院基本料算定では激変緩和のために「医療区分2」とする経過措置期間が認められています。2014年度でこの経過措置期間終了のために算定している23施設では大幅減収（「医療区分1」になると4000円／人／日の減額となる）の恐れがあり心配されました。要望書提出や折衝の結果、「医療区分1」とされることは回避されました。また多くの重症心身障害施設が採用している現行の入院基本料（障害者施設等入院基本料Ⅱ13対1、15対1看護配置も含め）が維持されることを基本目標とし、以下の要望をしていくことが提案されました。①超重症児者加算1400点、準超重症児者加算1000点への増額、②在宅療養超重症同準超重症児（者）入院医療管理料5000点の新設です。

③福祉問題検討委員会・入所支援部会報告。実態調査改訂に必要なこととして、1.内容の再検討・横地分類・障害支援区分の導入、2.重症児者の処遇、倫理規定↓「良い施設とは」が協議されました。

④学術委員会報告。重症心身障害療育学会については、医師の発表は「重症心身障害学会」に委ねる（棲み分け）、学会誌「重症心身障害の療育」については掲載がし易い学術誌であり施設長は投稿前の監修をお願いします。

⑤人材育成・研修委員会報告。重症心身障害福祉協会の研修については、平成27年度から新方式になる（詳細は略）。

⑥重症心身障害看護専門研修について。認定教育機関における現時点での成果・メリット及び認定教育機関における現在の問題点・課題、認定教育機関における現在の問題点・課題等が述べられました。

⑦「重症心身障害療育マニュアル」改訂。1998年に初版を発売した「重症心身障害療育マニュアル」は、既に

入院基本料算定23施設、精神病棟

15年を経過したが、累計冊数で4万部以上を販売し、現在も年間約2000部近くを売上げ職員教育や啓蒙活動に寄与しています。しかし、2005年に第2版を発売してから既に8年が経過しているとともに、「重症心身障害通園マニュアル」の内容を含めた大規模改訂に取り組む必要があることが述べられました。

重症児者実態調査

貴重な統計である超重症児(者)・準超重症児(者)実態調査(2012年度・平成24年度実態)

が報告されましたが、主な内容を以下に列挙します。入所超重症児者総数は2012年度は総数1197人で前年より42人上回る人数です。超重症児者について主な判定スコア項目別人数(超重症児者数に対する%)では、人工呼吸器管理659人(55.1%)、気管内挿管・気管切開1061人(88.6%)、1回/時間以上の頻回吸引853人(71.3%)、ネブライザー常時使用475人(39.7%)、経管(経鼻・胃瘻含む)996人(83.2%)、腸瘻・腸管栄養168人(14.0%)と呼

吸障害が主因となっています。

超重症からの改善例は、排痰・吸引減少2人、呼吸状態改善10人、ネブライザー中止2人、体調が安定1人、エアウェイ使用中止1人でした。また準超重症からの改善例は、排痰・吸引減少2人、呼吸状態改善1人、体調が安定1人、ネブライザー中止2人、吸引回数減少3人、過緊張が改善2人でした。

亡くなられた方は、超重症児者28人、準重症児者29人で、死因の多くは呼吸不全(含・誤嚥等)や肺炎、心不全、敗血症(多臓器不全)、悪性腫瘍などです。

通園在籍児者の実態については在籍者数2562人で、そのうち超重症児者は233人、準重症児者462人で合わせて総数の19.3%と通園利用者の重度化が続いています。

おわりに

重症児者の実態やニーズの変化、新制度の課題などが山積しています。次期開催予定は、2015年(平成27年)5月15日・16日に新潟県となっています。その時にはより良い重症児者制度となっていることを願っています。

メモ帳

【4月】

▽1日 新人オリエンテーション(14名) 4/2(水) ▽2日 通所始園式(利用者24名、保護者42名) ▽4日 新入職員対象防災避難訓練 ▽7日 福岡特別支援学校始業式 ▽8日 福岡特別支援学校入学式(中学部2名、高等部3名) ▽15日 栄養調理業務研修(いちばん星より職員2名) 4/16 ▽16日 イースター行事礼拝 ▽20日 保護者会総会・久山療育園との懇談会 ▽24日 博多高校看護専攻科実習事前オリエンテーション(生徒65名・教員4名) ▽29日 重症心身障害看護師研修会運営会議

【5月】

▽2日 福岡県福祉労働部障害者福祉課施設見学(11名) ▽8日 福岡県重症児者を守る会療育キャンプ研修会(福岡教育大学より21名) ▽9日 福岡県福祉労働部障害者福祉課施設見学(12名) ▽11日 認定看護師研修会運営会議(9名) ▽12日

博多高校看護専攻科実習(6名) ▽15日 西南学院大学サービス体験実習(18名) ▽18日 かえるの会主催「ごろうこんサート2014」 ▽19日 福岡医療短期大学保健福祉学科(介護福祉士)実習(ひかり棟に4名、6/17迄) ▽24(土) 運動会

▽28(水) 消防設備の法定点検、栄養課職員対象消防訓練、全体避難訓練 ▽31日 西南学院大学宗教部施設見学・ボランティア(44名)

【6月】

▽2日 粕屋保健福祉事務所主催 八女公立総合病院研修施設体験実習(2名) ▽4日 福岡県重症児施設協議会(福岡県障害福祉課3名・10施設48名参加) ▽5日 粕屋保健福祉事務所主催 福岡大学医学部3年生実習①(6名) ▽6日 「在宅支援センター起工式」(来賓・園出席者合計31名、施工者13名)、シオン幼稚園母の会見学(10名)、粕屋保健福祉事務所主催 福岡大学医学部3年生実習 (6名) ▽8日 篠栗教会より花の日来訪(9名)、福岡西部バプテスト教会より花の日来訪(16名)、「全国重症児(者)を守る会」創立50周年記念大会(3名) ▽9日 西南学院大学ソーシャルワーク実習(2名、6/24迄) ▽10日 福岡県立直方養護学校現場実習(1名)、福岡県職員新任職員研修(2名) ▽11日 西南学院大学実習指導者懇談会(1名)、粕屋保健福祉事務所主催 福岡大学医学部3年生実習③(5名) ▽12日 こども療育センター「すくすく」より通所見学、築城養護学校教師(2名)見学 ▽14日 福岡地方連合子羊集会(59名) ▽17日 福岡県庁福祉労働部障害者福祉課来園(2名) ▽18日 福岡市立南福岡特別支援学校通所実習(1日) ▽19日 ボランティア懇談会(32名) ▽20日 JU福岡(2名)見学 ▽21日 保護者会役員との懇談会 ▽26日 通所避難訓練・消火訓練 ▽27日 障害者支援施設「あけぼの園」より職員(5名)見学 ▽28日 精華女子短期大学 音楽療法見学実習(23名) ▽30日 博多高等学校看護専攻科 一日実習(補習、1名)

社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会
重症心身障害施設 久山療育園重症児者医療療育センター

2013年度決算

(単位：円)

2014年5月26日 理事会・評議員会 提出・承認

2013年度決算概要

I.全体として

- 収入において予算を上回り、支出においては予算を下回り、約1億8,900万円を積立金へ繰入れた。
- 2000年度から適用されてきた社会福祉法人会計基準(旧会計基準)より、「新会計基準」への移行を行った。
これにより、個別の事業毎の収支及び法人全体の把握が容易になり、簡素化された。当センターでは、1拠点12のサービス区分(12種の事業)に分けられた。
- 「在宅支援センター」建設関連では、業者委託契約に基づき支払いを行った。今期は建設仮勘定として法人本部へ計上し、将来計画特定預金より支払いを行った。また、予算化していた用地購入は許可が繰り延べとなり、次年度以降執行予定となった。
- 「在宅支援センター」建設の為に寄附金を募り、予算額1,000万円に対し、約1,500万円の寄附を頂いた。
2015年度までの目標総額3,000万円の内の1年目となる。

II.収入について(予算対比)

- 医療事業収入(入院・外来・歯科診療)について全体では、予算対比約660万円増。主な要因は外来診療件数・診療実績増による。
- 障害福祉サービスについて(医療外)全体では、予算対比約470万円減。主な要因は、短期入所について入所におけるインフルエンザ感染等による制限による減。通所についても出席日数減による。
- 経常経費寄附金収入について予算対比約170万円減。「在宅支援センター」建設寄附金(施設整備等寄附金収入)については予算対比約480万円増。全体では、約300万円増。

III.支出について(予算対比)

- 人件費について全体では予算対比約670万円減。育児休業者増・退職者代替要員減等による。
- 事業費について、全体では予算対比約280万円増。増加要因としては、医薬品費・光熱水費・消耗器具備品費等実績増。
事務費について、全体では予算対比約280万円減。研修研究費・外部委託費(障害児等療育支援事業)等実績減。
- 「在宅支援センター」建設関係では、業者へ1,167万円支払い。(建設仮勘定取得支出) 尚、業者支払い210万円及び用地購入費約1,400万円は来年度へ移行した為、未執行。
器具・備品(1品目10万円以上)における主たるものは、人工呼吸器2台(補助金有り)、生命維持監視装置他、医療備品約960万円。全体として予算対比約1,600万円減。

IV.積立金

将来計画積立金1億1,309万円、施設整備積立金7,473万円、人事管理調整積立金18万円、奨学積立金108万円、合計1億8,908万円を計上した。尚、積立金の中には寄附金収入2,870万円を含む。

科 目	予算	決算	増減
<<事業活動による収支>>			
(収入の部)			
児童福祉事業収入	3,090,000	3,156,263	66,263
障害福祉サービス等事業収入	426,140,000	421,420,237	△ 4,719,763
医療事業収入	725,480,000	732,093,063	6,613,063
経常経費寄附金収入	15,700,000	13,964,855	△ 1,735,145
受取利息配当金収入	2,500,000	2,747,318	247,318
その他の収入	5,740,000	6,498,437	758,437
事業活動収入計(1)	1,178,650,000	1,179,880,173	1,230,173
(支出の部)			
人件費支出	812,514,000	805,858,357	△ 6,655,643
事業費支出	110,820,000	113,580,637	2,760,637
事務費支出	75,432,000	72,627,940	△ 2,804,060
事業活動支出計(2)	998,766,000	992,066,934	△ 6,699,066
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	179,884,000	187,813,239	7,929,239
<<施設整備等による収支>>			
(収入の部)			
施設整備等補助金収入	5,205,000	5,204,960	△ 40
施設整備等寄附金収入	10,000,000	14,762,112	4,762,112
施設整備等収入計(4)	15,205,000	19,967,072	4,762,072
(支出の部)			
固定資産取得支出	37,632,000	21,269,470	△ 16,362,530
施設整備等支出計(5)	37,632,000	21,269,470	△ 16,362,530
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 22,427,000	△ 1,302,398	21,124,602
<<その他の活動による収支>>			
(収入の部)			
積立資産取崩収入	27,843,000	11,678,890	△ 16,164,110
その他の活動収入計(7)	27,843,000	11,678,890	△ 16,164,110
(支出の部)			
積立資産支出	185,300,000	189,086,577	3,786,577
その他の活動支出計(8)	185,300,000	189,086,577	3,786,577
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 157,457,000	△ 177,407,687	△ 19,950,687
予備費支出(10)	0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	9,103,154	9,103,154
前期末支払資金残高(12)	285,707,560	285,707,560	0
当期末支払資金残高(11)+(12)	285,707,560	294,810,714	9,103,154

ご協力ありがとうございました

(2014年4月1日～6月30日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

仙川キリスト教会 小宮豊 豊前キリスト教会 又野貴志 栗田昌直 山口正一 MAK KITY CHU NSAU (学) 西南学院中学校母

の会 かえるの会 羽田有子 久山町中久原区 くずめよし 山口正夫 西南学院大学短期大学部

付属シオン山幼稚園 恵泉バプテスト教会女性会 松岡順之介 福岡

地方連合女性会 柳沢伸一 後藤敏雄 今村さち 手作り品売上 (以上273,771円)

指定献金

該当無し

建築献金

甲斐悦江 安藤榮雄 (宗) 大牟田バプテスト教会 山崎克明 吉永節子 山田雄次 川野直人 嘉久明子 日本バプテスト鹿児島基督教会 日本バプテスト篠崎キリスト教会 安武雅男 福岡賢二・聖子・吉長文弥・南 福岡南教会婦人会 榎谷悦子 井上清美 河島美穂 曾根崎加代子 通所保護者来久の会 中野拓子 牟田逸雄 田中登美子 来園者自動販売機売上献金 渡辺浩行 後藤敏雄 横溝玲子 匿名 久山療育園献金箱 (以上1,991,014円)

【施設会計】

施設献金

久山町上久原区 松村祐二郎 因

献品

(以上41,400円)

仙台バプテスト教会(タオル、半タオル、バスタオル) 深見達弥(絵本)

平川成(食器洗い用タワシ、手作り足袋) 浜中美佐子(手作り造花) 高倉博子(手作り手提げ類) 鮫島隆之

(はがき) 新藤佐知子(はがき) 山口英明(はがき) 古賀和男(はがき) 山口秀和(はがき) 山口正夫

(はがき) 鮫島芳子(はがき) 山口吉昭(リラックステア) 藤シマ子(布、手作り慶弔袋) 堀敏子(手作

り人形) 岩崎慧祐(はがき) 山崎和樹(はがき) 合屋和馬(はがき) 播磨信子(切手) 柏木郁子(お米)

福田さとみ(はがき) 古賀美紀(はがき) 下条京子(手作り品) 村上嘉彦(バスタオル) 安部田史子(コ

サージュ) 中山リサイクル産業(タオル) シオン山幼稚園(タオル) (以上25,350円)

【コロー友の会献金】 (以上38,403円)

【コロー友の会扱い献金】 直方バプテストキリスト教会 人吉キリスト教会 大泉バプテスト教会

中島乃婦子 恵キリスト教会 (以上65,400円)



藤田 英彦

そこで、イエスは言われた。「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。」マタイによる福音書26章52節

アベノミクスによる経済成長を謳う安倍自民党政権は、「壊憲」を目標に、憲法86条の悪用を企てたり、マスコミの悪用を企てたり、多くの世論の反対を無視して秘密保護法を成立させ、今度は遂に与党である公明党を強引に巻き込んで、この7月1日、集団自衛権の行使を時の内閣で決定できることを決議しました。これは日本の国が国民の意思がどうあれ、国会の議を経る必要もなく、その時々総理大臣を始めとする内閣の大臣たちによっていつでも戦争が出来る様になったということです。翌日の幾つかの新聞は「も

はや、日本は60年来続いた戦争しない国ではなくなった。この国はもはや戦後ではなく、戦前を迎えた」と報じました。

イエスは、マタイ5章44節以下で「しかし、わたしは言っておく、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。」と言っておられます。

イエスは、十字架に架けられる前にゲッセマネの園で、剣や棒を持ちつて自分を捕えに來た、祭司長や民の長老たちが遣わした大勢の群衆に立ち向かったペテロに対しても毅然として「剣を取る者は皆、剣で滅びる。」と言われました。

「集団自衛権の行使」「海外派兵」は歴代の自民党政府もこれを認め

ず、特に歴代の法制局長官が『憲法違反になる』と戒めて來たことです。これによってわが国は先の大戦の敗戦後60余年、海外から「戦争をしない国」と信頼されてきたのです。にも拘らず、本来平和でなければならぬ北東アジアとの関係を、安倍首相の靖国神社参拝、尖閣列島問題、竹島(独島)問題、北朝鮮問題などで殊更に緊張をちらつかせて、今日、総合力が衰退してきたと云われるアメリカにしがみつき、アメリカの信用をと日米安保強化を狙っての軍事強化路線です。また、3・11の傷跡がいっぱい残っているにも拘らず強引に進める危ない原発輸出や集団自衛権の行使決定直後の武器輸出決定です。この安倍内閣の根底にある思想は、すべて、力に頼り、経済優先「モノ」中心の思想で貫かれています。聖書が伝えるイエスの言葉との違いを目を覚ましてはつきり見分けて行きましょう。

支援者からの声 第十回

「Mit-Leben
—共に生きる—」

バプテスト「コロニー」友の会会長
前西南学院中学校・高等学校校長
福岡ベタニヤ村教会

伊原幹治



バプテスト「コロニー」友の会は久山療育園を物心両面から支援する組織で、1970年に設立されました。それは久山療育園ができる5年前で、施設をどこに建設するか、場所もその名称も何も決まっていなかった時であったので、会の名称には久山療育園との関係を直接表す言葉は何も入っていま

せん。実態ができてから支援組織が作られたのではなく、わたしたちの場合は逆で、活動理念が先行したのです。ですから、まず「心身に障害を持つ人や、その家庭の重荷を共に担い、人が人として尊重される社会づくり」を目指す運動体として発足し、久山療育園の建設を支援すると共に、久山療育園に入所していない地域の在宅の重症心身障害児(者)の方々も支援するという所に特徴があります。そういうあり方は、久山療育園が建設されてからも、その性格に影響を与えてきました。6月に工事が着工された久山療育園の「在宅支援センター」構想も、地域がかかえる困難を共に歩もうとするものです。

「友の会」は、毎年一回総会が開かれ、毎月運営委員会がもたれています。主な活動は、友の会員からの会費収入に街頭募金やコロニー献金などを加えて、久山療育園に献金することです。ちなみに、2013年度は3,527,178円で、これまで1億円を超える額が献金されました。この場を借りてご協力感謝申し上げます。この他、恒例となった夏の2泊3日

のワークキャンプには、毎年全国各地から100名を超える老若男女が参加しています。9/23には開園祭の手伝い、2月のチャリティコンサート、創立前から続けられてきた街頭募金は毎月第4土曜日と年末に7日間、天神西日本新聞社(博多大丸デパート)前で行われています。この他にもたくさん活動がありますので、ふるってご参加ください。

「友の会」が使っているMit-Lebenという標語は、村上寅次会長(2代目、西南学院教会)の時に生まれました。ずっと以前に福岡教会で「友の会」運営委員会を行っていた時、以前から、「友の会」活動を表す何かいい標語はないものかと考えていた私は、その件を話題にしました。しかし、なかなかいい言葉が思い浮かばず、村上先生に「『共に生きる』という言葉を英語にしたらどうなりますか」とお尋ねしました。しかし、これという表現が見つからなかったため、ドイツ語ではどうでしょうかと尋ねたら、「共に」はmitで、「生きる」はlebenなので、これをつなぐとMit-Lebenになると言われました。ドイツ語ではこういう言い回しは可能だとの

ことでした。響きも良く、そこにいる人たちに語つたら、いいではないかということで、「友の会」の活動を表現する言葉として使用することになりました。以来、「Mit-Lebenシャツ」など、いろいろなところで使われ、夏のワークキャンプTシャツにもこの言葉が印刷されています。昨年は黄色でした。では、今年は?

こういうことを思い出したのは、ひとりの卒業生からもらった本がきっかけでした。彼は経営者として自分の会社や、また様々な場所に呼ばれて話をする際に、企業の存在理念や社会貢献を説明する言葉として、このMit-Lebenという言葉を使用しているというのです。そこで、どこでこの言葉を知ったのかと尋ねたら、何と西南学院中学校であったと言います。おそらく聖書の授業でのことでしょう。卒業後も覚えていてくれたことを嬉しく思いました。

ところが最近別のところで、またこの言葉に出会いました。数年前に本校を退職された先輩の先生が保育所を開設されました。先日お目にかかったら「忙しい」と、ばやいておられましたが、お元気そうで

した。その先生が園を紹介する文章の中で、何とMit-Lebenを使っておられたのです。この言葉を地域の保護者や園児たち、そして教職員と園との関係性を表す言葉として用いておられました。このように「共に生きる」Mit-Lebenが、様々な場所であがっていくことを嬉しく思ったことでした。

イエスは、「ルカによる福音書」10章25〜37節の「よきサマリヤ人」のたとえ話で、「誰が強盗に襲われた人の隣人になったと思うか」と問われました。イエスが言われる「隣人」とは、隣家の住人でも、電車やバスで隣りに座った人でもありません。聖書では、自分より弱い立場、困難な状況に置かれた人をさす特別な言葉として用いられています。「友の会」は、重症児(者)の隣人として広く「共に生きる」社会の建設を目指して、これからも活動して行きます。どうぞご協力をお願いします。



音楽会

2014年7月10日、久山療育園の交流ホールにて、音楽会が行われました。今回の音楽会には、JOYクラブの方々が来て下さいました。

音楽会に参加される人で、交流ホールがあつという間にいっぱいになり、JOYクラブの方々の楽しい演奏が始まりました。演奏が始まると、自然と手拍子が聞こえ始め、とても賑やかになりました。

利用者さんも、JOYクラブの方々とニコニコと笑っていて、その姿を見て、なんだか心が温まりました。気が付くと、音楽に合わせて歌を歌っている自分がいて、利用者さん



の笑顔とJOYクラブの方々の楽しい演奏を見ることができ、私も、周りの方々も自然と笑顔になっていて、音楽の力はとても凄いということを感じていました。

途中、久山療育園の利用者さんもJOYクラブの方々と一緒に楽器を演奏させて頂き、ここでも、とても素敵な笑顔を見ることが出来ました。音楽を通して、人と人が繋がることは、とても素晴らしい事だと感じ、この音楽会に参加出来たことを感謝しています。

(めぐみ棟保育士 葛島)

夏まつり

今日は7月26日土曜日！ 何の日でしょうか？・・・そう、みんなが待ちに待った夏祭りです！浴衣姿がみんなよく似合っていましたね☆

みんな嬉しそうに出発です！最初のお店はお面でした。自分の好きなお面を選んで満足気な表情！他はゲームコーナーがたくさんありました。ゲームが意外に難しくて景品がゲットできないときがあつたり、1対1でゲームの競争のときには真剣です！負けた方は、そっぽを向いて悔しそうな表情に・・・でも勝ったときにはニコニコ笑っている方もいました。

た。

2階ではアイスクリームコーナーがありましたね！みんなおいしそうに食べていました。ゲームで遊んだ後のアイスクリームはやっぱりおいしいですね☆

他には、花火のコーナーでスクリーンにきれいな花火が映っていましたね。真つ暗な部屋でキラキラと上がる花火にみんなうっとり。じつーと花火を見ていました。

そして、15時から盆踊りです。みんな踊って歌ってサザエさんも出てきましたね！

みんな生き生きとしていて、笑顔が絶えませんでした。楽しい時間はあつという間・・・。

今日はいつもより一日が早かったです。来年もみんな楽しい思い出にしましょうね！

(めぐみ棟看護師 中原)



園外活動

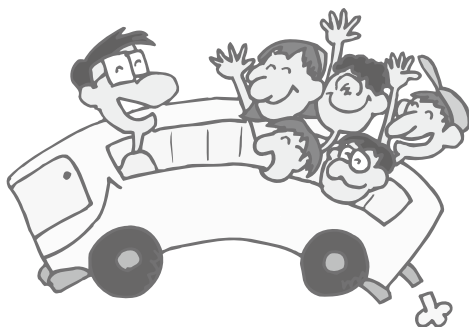
6月13日(金)、大名クロスガーデンに行きました。お天気に恵まれ、久しぶりに乗るバスに皆さん、キョロキョロ、わくわく。目を輝かせて、さあ！出発！！



路は続くよ「汽車ポッポ」を歌って、みんなでアーチを作り、その中を車椅子を押してくるくる回りました。皆さんは、アーチの間から見える皆さんの方々の笑顔と歌声とリズムにとっても嬉しそうでした。そのあと、大名を散歩、お買い物をして楽しい時間を過ごすことができました。大名クロスガーデンの皆さん本当にありがとうございました。

(めぐみ棟介護福祉士 大重)

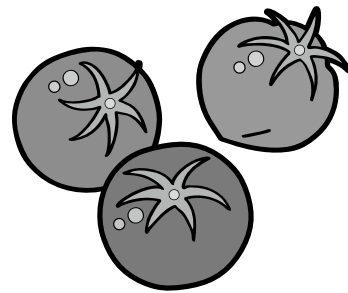
都市高速から見えた海や、大きな客船、飛行機など窓からの景色を楽しんでいたかと思うと、あつという間に大名に着きました。バスから降りたところは、入口はおしゃれな喫茶店、中はとてもきれいな教会でした。そこでは、教会の方々が音楽会を開いてくださり、そのピアノやきれいな歌声にうっとり。皆さんは自然に嬉しそうな声が出たり、一緒に歌っていました。電車が好きな方がいますと事前にお伝えしていましたので「線



トマトを育てています!!

今年5月、ひかり棟梁瀬勝美さんはトマトを植え、日々の観察日記や水やりを頑張っています。勝美さんの担任の樋口先生とは美味しいトマトになるよう肥料をあげたり、トマトの苗の身長を計測したり先生と一緒に楽しく取り組みることが出来ています。今ではプランターは4つに増え、トマトの他にもバジルやピーマン、しとう、お花・・・と沢山育てています。

トマトの育て方のポイントは、水のやりすぎに注意することです。水を与えすぎると枯れてしまったり、甘い実にならなかったりするようにです。勝



美さんとお話ししながら、雨が降った日には水やりを控え、苗の状態を観察しています。

だんだんとトマトが赤くなってきた収穫の時期には、私のところへとても嬉しそうな表情でトマトやピーマンを持ってきてくれました。私もひとつ頂きましたが、甘くて美味しいトマトが出来ていました。トマトの栽培は勝美さんにとって楽しみのひとつになったのではないかと思います。

勝美さんはこの夏、沢山収穫できるのを楽しみにしているようです。みなさんも勝美さんのトマトを見に来てくださいね。

(ひかり棟介護福祉士 村上)



盆踊りにおでかけ

8月13日水曜日、久山町東久原のお祭りに行ってきました!

今年の参加者はひかり棟より森田さん、澤田さん、梁瀬さん、仲野さん、山口英明さん、めぐみ棟より矢津さんの計6名でした。皆さんそれぞれ夕食を早めに済ませ、交流ホールで虫よけ対策をし、うちわを持っていざ出発!まだまだ明るい夏の空の下、久原の公園へ行きました。盆踊り会場に着くとすでに地区の方々も準備をされていて、皆さん笑顔で挨拶をして下さいました。なかには療育園で働いて下さっているスタッフの方も!よく知った顔、でも服がいつもと違うからか「おかしいなあ」と首をかしげる利用者さんもしらっしゃいました。



盆踊りの音楽がかかり始めると、地区の大勢の子どもたちが一気に大集合!!皆さんよく練習されているようで、音楽と太鼓に合わせて上手に踊っていました。利用者さんやスタッフも大きな輪に入り、楽しく盆踊りができました。

踊りの後は、待ちに待った出店でお買い物☆全員でくじ引きをして、からあげや焼きそば、ポテトにジュースなどご自分の好きなものを選び、各々嬉しそうにお買い物をされていました。

その後始まった太鼓の演奏では、あまりの迫力ある演奏に少々驚きながらも利用者さんを含めたお客さん達は皆大盛り上がり!一番前で見ていた私たちは、太鼓を力いっぱい叩いている演奏者さんを間近で見ることができ、とても感動しました。

園に戻り、交流ホールにて出店で買ったものを皆さん美味しく召し上がっていました。素敵な笑顔を沢山見せて下さり、同行したスタッフもとても楽しい時間を過ごせました。

地区の皆様、御協力ありがとうございました。



運動会

久山療育園で働き始めて5年、昨年は子供が生まれたばかりだったので、運動会を見に行くのを諦めました。

今年4月より仕事復帰し、通所へ異動になり、仕事を覚える事と利用者さんとその保護者の方の顔と名前を覚える事に毎日必死でした。まだまだ分からない事が多く、不安の中で運動会の日が近づいていました。不安半分、楽しみ半分で運動会当日を迎え、通所での初参加。天気予報は「晴れ」。暑くなるということで、大丈夫かな? と思いながら、参加される26名の利用者さんとそのご家族の方が皆さん揃いました。運動会が始まり、皆、楽しく、ハラハラドキドキしながら競技に出場し、テントでは皆で応援しました。競技にはONE PIECEにピカチュウ、サザエさんにドラえもん、沢山の手作りのキャラクターが出てきました。その一つ、一休さんのなぞなぞを解く競技では、皆で答えを考えて、1番になった時は凄く盛り上がりました。「宇宙(そら)」の幼児さんたちは、タマとドラえもんに変身して競技に出場。可愛らしく変身した姿に皆が癒されていました。最後の「風船飛ばし」で利用

者さんのメッセージが読まれると、涙が……。そして、一斉に風船を飛ばし、空を見上げると青空に飛行機雲が一直線に伸びて、すごく綺麗で感動しました。

今年は通所では、サザエさんをテーマにしている、参加賞や競技に使用する沢山の小道具は、活動で利用者さんと一緒に制作したり、スタッフの皆さんで制作して出来上がったので、感慨もひとしおでした。

通所で今後も様々な行事がありますので、皆さんと参加出来るのを楽しみにしています。利用者の皆さんと、そのご家族の方々、そしてスタッフの皆さん、これからも宜しくお願ひします。

(通所看護師 大谷)



午後の活動

「リラックスタイム」

通所では午前中に主活動(1週間ごとにテーマを持った活動)を行い、午後から帰りの会の前までの時間に、ゆったりとした活動「リラックスタイム」を行っています。

活動内容は利用者さんの傍でスキップを図りながらお話をしたり、保育士さん・介護福祉士さん・看護師さんがマッサージや体操・制作・手遊び・簡単なゲームや感覚遊びを準備して、落ち着いた雰囲気の中で関わりながらゆっくりとした活動を行っています。

またボランティアさんや学生さんが傍でお話や紙芝居の読み聞かせをしてくれる日もあります。皆さん読み聞かせがとても上手なので、利用者さんも職員もいつも聴き入っています。

とてもゆったりしたひと時なので、気持ち良くてウトウトお昼寝をされる利用者さんもちろほら居られます(笑)。14時頃から行っていますので、良かったら一度覗いてみてくださいね。飛び入り参加もOKですよ。お待ちしております。

(通所保育士 原田)



職員の異動

(5/1~7/31)

【退職】

大坪悠加(保育士) 6/30

古賀ムツヨ(食事介助員) 6/30

副島徳恵(食事介助員) 6/30

【採用】

近藤美香(正看護師) 5/1

井上彰子(介護福祉士) 5/1

中嶋真理子(歯科医師) 5/19

田崎加奈子(保育士) 6/1

安河内美名子(食事介助員) 6/

26 草場美恵子(食事介助員) 6/26

献金申込送金先

社会福祉法人

バプテスト心身障害児(者)を守る会

〒811-2501 福岡県粕屋郡久山町大字久原 1869

久山療育園重症児者医療療育センター内

☎ (092) 976-2281 (代)

《郵便振込》郵便振替 【01720-8-24404】

《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888

個人、会社共に免税の対象になります。

メール: hisayama@hisayama-smid.jp

夏祭り

2014年7月9日

台風8号の接近が心配される天候の中、今年度は通所の行事となった〈夏祭り〉が行われました。出席者26名で欠席者はわずか1名のみでした。浴衣や甚平を着た華やかな利用者さんが目立ち、オシャレをして来



られている方が多かったです。母子ともにワクワクされている様子が表情や服装からうかがわれました。

夏祭り会場の出店は『駄菓子屋』・『射的』・『ブリクラ』・『輪投げ』・『釣り』の5つと廊下に設営された『お化け屋敷』の構成で行われました。それぞれに産業医大の学生さんも参加し若いパワーで盛り上げてくれ

ました。1つ1つの店を親子でゆっくり廻り景品を当てる喜びや、釣りでヨーヨーやアヒルをGETし得意になる表情が印象的でした。いくつになっても出店での遊びはワクワクドキドキの楽しいもので、お母様方も童心に返って懐かしさやホンワカした気持ちになったとても心地の良いひと時が過ごせたのではないかなと思います。

利用者さん保護者の皆様スタッフの皆様本当にお疲れ様でした。

(通所看護師 石田)



外来

宇宙

宇宙のプール活動

さあ！ジメジメした長い梅雨が明けて夏本番!!夏といえばプール。みんなが楽しみにしていたひんやり冷たいプールの始まりい。水着姿になった宇宙のみんなはとっても可愛くて小さなお魚さんの様です。

プールに入る前の体操をリハビリの先生たちと「1・2・3・4！」今度はお母さんたちと一緒に「2・2・3・4！」みんなの素敵な笑顔が咲き始めました。



その後はポンポンのウォータースライダーの上に、みんなが二階にどぶくん!!上下左右にゆらゆらゆら。海の上のような感覚でリラックスした後に小さなプールで水遊び。おもちゃを使って手や足を水かけると少しビックリしたけど、すぐに慣れて水を掛けられても笑顔でした。大きなプールに入るとみんなの目がキラキラ輝いて、浮き輪で身体を支えながら手や足をばたばたと楽しそうに動かしている姿がとても印象的でした。また来年もみんなで思いっきり泳ごうね。

(通所保育士 原田)





食事は “楽しく夢のある食事”に

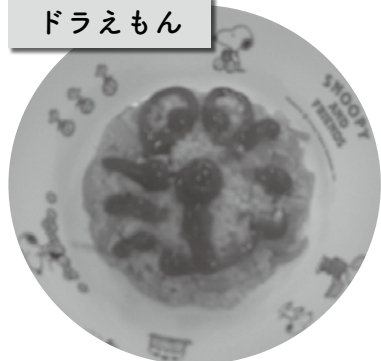
その2



テーマ：可愛いアニメの主人公たち

「見て美しく、食べて美味しく、食べやすく安全で、楽しく夢のある食事」を目標に栄養課スタッフが取り組んでいるキャラクター・デコレーション盛付の紹介シリーズ2回目です。まずは「アニメの主人公たち」。ふなっしーやドラえもん、アンパンマンに挑戦しました！！ 栄養課長 中山裕子

ドラえもん



アンパンマン



ふなっしー



ミッフィー

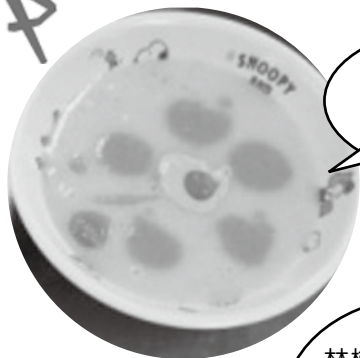


野の花たち



ムース食：
蝶々と木の葉

ペースト食：
花のちらしずし



林檎のデザートに
チェリーを花びら
模様に



ご飯中央にドライ
カレー
ひまわりのように
盛付けて



ペースト食：
ドライカレーを花
模様にした



通園の保護者の方から「楽しい盛り付けで嬉しい」とお言葉を頂きました。今後もスタッフ一同、調理・盛付デコレーションの工夫を重ねて、ご紹介したいと思います。お楽しみに！

在宅支援プロジェクト委員会 および設立準備室からのお知らせ

久山療育園では2009年度から「在宅支援プロジェクト」を策定し、在宅重症児者及びご家族・保護者の方々への支援を目的として「在宅支援センター」の建設が進められています。既に新聞報道などでご承知かもしれませんが、「在宅支援センター」は①「在宅支援棟」(通所事業・短期入所事業・訪問事業の基地)、②「重症者ホーム」(グループホーム・介護サービス包括型、10人定員)からなります。建築規模は、敷地面積:1841.81㎡(558坪)、建築面積:1,250.59㎡(379坪)、延床面積1,984.84㎡(601.5坪)となり、土地購入費から建設費ほかで5億円を超える資金を必要としています。

また久山療育園では、1年前の「愛の手を」第172号でもご案内致しましたが、第37回開園祭の2013年9月23日から2015年度にかけて在宅支援建築募金を募り、毎年1,000万円を目標としています。これまで熱いご支援があり2013年度は既に目標を達成しています。尚、参考までに募金の振込口座の案内を右にお示し致しますので、これからもご支援をお願いします。

……………(名義)……………

在宅支援プロジェクト
「ケアホームひさやま」募金

……………(金融機関)……………

西日本シティ銀行 久山支店
店番 739 口座番号 3002812(普)

……………(問い合わせ先)……………

久山療育園事務部
TEL 092 - 976-2281



在宅支援棟 (昼景)



在宅支援棟 (夜景)

バプテストコロニー友の会「かべしんぶん」

2014年度「友の会」総会を終えて

バプテストコロニー友の会 会長 伊原 幹治



い、良い話し合いがもたれました。

賛美・聖書朗読・祈りの後、総会資料に基づいて松藤牧師の司会で議事が進行し、前年度予算と活動報告が承認され、その中で、久山療育園には3,563,497円が献金されたことが報告されました。続いて、2014年度の活動計画と予算が審議され承認されました。今年度の活動テーマは、「改めてバプテストコロニー友の会活動の強化を目指して」新しい在宅支援プロジェクトに取り組む久山療育園との伴走をとおして」という昨年度のテーマを継承することになりました。

さて、昨年度の報告でも少しふれましたが、昨年度まで「ケアホームひさやま」と呼んでいた在

バプテスト住宅支援施設の名称が「在宅支援センター」と変更され、その工事が着工されました。この事業は、久山療育園が在宅家庭の置かれた厳しい状況に手をこまねているわけにはいかないと強い危機感を持って取り組むものです。施設を増やさないという国の方針のもとで、特に障害の重症化や在宅家庭の親の高齢化による「赤信号家庭」がかかえる問題は待った無しの状態にあります。ただ、この事業は全国的にも例がなく、経営面での問題が残されたままでのスタートであります。地域家庭がかかえる困難と「共に生きる」久山療育園の姿勢を強く押し出したものであり、「友の会」としてもこれを支援していくことになりました。

本年度も、一人でも多くの方が「友の会」に入会くださり、夏のワークキャンプをはじめ、チャリティコンサート、いのちネットワーク、街頭募金などの様々な活動にご参加くださいますようお願い申し上げます。

(福岡ベタニヤ村教会)

バプテストコロニー友の会

2014年度の取り組み

年間テーマ「改めてバプテストコロニー友の会活動の強化を目指して」(2)

―新しい在宅支援プロジェクトに取り組む久山療育園との伴走をとおして―

久山療育園では中期5ヶ年計画

の第2次在宅支援プロジェクトとして「在宅支援棟」と「重症者ホームひさやま」の建設を目指し取り組みが進められています。「在宅支援棟」は訪問看護、居宅介護事業(ヘルパー派遣事業)など在宅支援の拠点として、

「重症者ホームひさやま」は医療病床の増床が難しい中、障害の重症化や親の高齢化により厳しい状況にある在宅重症児への支援の受け皿として在宅支援活動の拡充・強化を目指

す新しい事業の取り組みです。久山療育園が取り組もうとしている新しいこの事業は在宅重症児者(家族)から寄せられている強い支援の訴え

に答えて行うものですが、事業の推進は非常に厳しく特別な支援が必要とされ、建築のための募金と「重症者ホームひさやま」の運営支援(年間1,200万円の赤字の補填)が

求められています。重症児者を対象として「重症者ホームひさやま」開設の取り組みを是非成功させたいと願

いコロニー友の会挙げて支援してゆく」ということを運営委員会が協議し、総会に諮り決議されました。

コロニー友の会の平常活動に加えて以下2つの取り組みを進めていきますのでご協力をお願い致します。

1、建築募金(3年間で300万円)の協力について

1年間100万円、3年間で300万円の募金を行い建設事業に協力する。

①北海道ばいしよとかぼちゃ金目標50万円)

10月20〜24日販売予定

②ボランティアによる大名クロスガーデンでの「久山デー」の開催(チャリティーコンサート・ミニバザーその他の献金)10月25日(土)開催

③教会・グループレベルでのミニチャリティーバザー及びコンサート等の開催

④3年間に限った個人献金の呼びかけ

2、「重症者ホームひさやま」の運営支援の強化を目指す取り組み

久山療育園へのコロニー友の会からの献金は今後全額「重症者ホームひさやま」の運営支援献金として献

げ、事業の運営推進に協力する。

献金の増額は年間150名の友会員の獲得による会員の増加による会費納入を裏付けとし、支援組織の一層の強化を計る。

経常献金(重症者ホームひさやま運営支援)(年間赤字予想額1,200万円の補填に向けた)目標

	友の会会員数	年会費	コロニー友の会費	+街頭募金	+コロニー献金	+チャリティーコンサート	=収入合計	-活動費	=久山療育園への献金額
2013年度	850人	2,400円	204万円	70万円	150万円	70万円	494万円	120万円	374万円
2014年度	1000人	2,400円	240万円	70万円	150万円	70万円	530万円	120万円	410万円
2015年度	1150人	2,400円	276万円	70万円	150万円	70万円	566万円	120万円	446万円
2016年度	1300人	2,400円	312万円	70万円	150万円	70万円	602万円	120万円	482万円
2017年度	1450人	2,400円	348万円	70万円	150万円	70万円	638万円	120万円	518万円
2018年度	1600人	2,400円	384万円	70万円	150万円	70万円	674万円	120万円	554万円
2019年度	1750人	2,400円	420万円	70万円	150万円	70万円	710万円	120万円	590万円

あなたも久山療育園と一緒に働きませんか？

久山療育園では、一緒に働く職員を募集しています。

事業拡大のため、あなたの力が必要です。
毎年昇給もあります。お待ちしております！！

久山療育園はこのような職場です！

1. 利用者に優しい！
2. 明るく楽しい職場！
3. 安定した収入！

●介護職員(介護福祉士・保育士)

◎給与／184,700円～

●介護職員(療育員・ホームヘルパー)

◎給与／160,310円～



(賞与・各種手当)

○賞与(年間4.5ヶ月分・年2回支給)※平成25年度実績

○扶養手当(配偶者13,000円、子6,500円/人)

○住宅手当(最大28,000円まで)

○通勤手当(自家用車…最大24,500円、交通機関…最大55,000円)

○退職金(退職共済)※入職後1年より対象

○制服：貸与

(休日)

○変形労働時間制(年間休日121日) ※平成26年度実績

○クリスマス休暇(12/25)

○年末年始(12/30～1/3)

※障害者福祉に興味がある方、やる気のある方 大歓迎です！！

資格がなくてもOK！！就業後、資格取得が可能です。

※給与待遇など詳しくは当園のホームページ(<http://hisayama-smid.jp>)をご参照下さい。

出展にあたり、当日のブース作りの準備・当園のアピールポイントなどを載せたチラシやリーフレットの作成など、病棟で勤務している若い生活支援員たちの意見を取り入れながら取り組みました。みんなの意見から、当園のアピールポイントは、「利用者に優しい！ 明るく楽しい職場！ 安定した収入！」の3点にしました。当日は、総勢7名でフェアに挑みました。風船を飾ったり、PRポイントや写真を展示したりして、明るいブース作りを目指しました。フェアが開催されていた約3時間、途絶えることなくたくさんの方に

参加しました。これは、福祉・介護業界に就職を希望している方を対象とした就職フェアで、約170の福祉・介護関係の施設がブースを出展し、毎回多数の来園者がある福祉業界のイベントです。

当園でも、重症者ホーム開設にあたり職員の確保が必要であるため、8/8福岡県社会福祉協議会主催の「福祉のしごと就職フェア2014 in FUKUOKA」に参加しました。

福祉業界は、人員不足である上に新規事業を行う施設も多く、人材を確保するにあたっては、どの施設も苦労しているのが現状です。

ブースに来ていただき、当園のことを知っていただくことが出来たと思います。また、ブースに来られなかった方にも、400枚配ったチラシを見て興味を持ってもらえたら、と思います。その中で1人でも多くの方が応募して下さり、一緒に働くことが出来ることを願っています。

また、今回のイベント準備を通し、今勤務している生活支援員の思いや利用者に対する優しさを実感しました。

(療育課長 山田)

「福祉のしごとフェア」に参加しました



ボランティアだより

ボランティア講習会

七月二日(土)、今年度二回目のボランティア講習会を行いました。

事情があり事前にキャンセルされた方もいらつしました。二名の方(社会人七名・学生四名)に参加いただき、加えて三名の新人職員が部分参加しました。例年そうなのですが、今回の皆さんもとても熱心に受講して下さいました。

毎回、好評をいただくボランティアさんの体験談では古池節子さんと喜多嶋美美子さんに、保護者の体験談では野中峯子さんと安河内清美さんにお話をして頂き、ボランティア活動の楽しさや、ご家族の思い・ボランティアさんへの期待など、受講者の皆さんに知っていただくことができました。

皆さんの感想をご紹介します。

「実際にボランティアとして参加したいと思った」(社会人)

「(現役ボランティアさんの)『無理せず続けること』という話が印象に残った」(社会人)

「利用者さんとのふれあいの時間では、最初は緊張し戸惑ったけれど、

笑顔を向けてくれて安心した」(学生)

「ふれあいの時間では、利用者さんがニコッと笑ってくれた。現役ボランティアさんが言う『本当の笑顔』という感じがして嬉しかった」(学生)

「ご家族の話を聞いてとても感動した。久山療育園の役割を知れた」(社会人)

「普段なかなか聞くことができない話を聞くことができ、また別の視点から利用者の方のことを考えることができた」(学生)

「病院の機能をもちながら、医療施設の感じがせず、学校のような楽しい感じがした」(社会人)

「(施設理念の)病院であり、学校であり、家庭である、という言葉がとても印象に残った」(学生)

「利用者さん一人一人の個性が違うことが分かった。その違いを大事に接していることを感じた」(社会人) など、さまざまな貴重な感想をいただきました。

受講者の中から、さっそく園の夏祭り行事にご参加下さる方もいらつ

しゃいました。今後も、色々なかたちで園とつながっていただければと願っています。

二回目の講習会は十一月八日(土)を予定しています。たくさんのご参加をお待ちしております。

(相談支援主任 山田)



第38回 開園祭のご案内

テーマ「在宅支援プロジェクトの実現」

◎開催日時

2014年9月23日(火・祝日) 9:30～14:30

◎開催場所

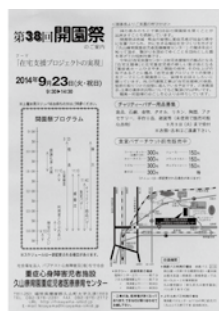
久山療育園重症児者医療療育センター室内及び屋外

今年も地域の方々にたくさんお越しいただき、ゆつくり利用者やご家族の方と触れ合っていたきたいと考えています。

皆様のご来園をお待ちしています。

喫茶・展示	9:30～14:00
感謝礼拝	10:00～11:00
公開療育	11:10～11:40
模擬店・食堂バザー	11:10～14:00
チャリティ商品バザー	11:40～14:00
ふれあい広場	13:30～14:00
閉会のつどい	14:10～14:30

※スケジュールは一部変更される場合があります。



歩行器



7月12日(土)、恒例のボランティア講習会が開催された。現在のよう形式になってから8年目となる。

今回お話し頂いた保護者は、長く通所を利用いただいているお二方であった。それぞれの子どもさんが障害をおわれた経緯、在宅重症児者と共にあるご家族の取り組みとご苦労、そして困難の中にありながら重症児者であるお子さんが、やがてご家族や周囲の人々の心を照らしてゆく過程が語られ、参加者や久山療育園職員が真剣に聞き入ったひと時を持った。

この原稿を書いている今は梅雨空の最中にある毎日だが、在宅重症児者の皆様をお引き受けしている通所棟では今日も明るい活動の音が響き、天井からは紫陽花をモチーフにした作品の鮮やかな青色が輝き、フロアには様々な願いが書かれた色とりどりの短冊が飾られた笹が、鮮やかにそして美しく飾られている。

窓の外では鉛色の空の下で、田植えの終わった久山の緑と、在宅支援センター建設地の土色がコントラストを成している。

やがて夏の盛りには利用者さんが楽しみにしているプール活動の水色や、周辺のひまわりの黄色がこれに加わり、久山療育園の絵具箱はいよいよにぎやかである。

(T・M)